



# 大樹のこころ

## 教師支援と子供の活動

宿泊行事は、子供たちにとって大きな楽しみです。小学校での宿泊行事は修学旅行と山の学習。毎年高学年の担任となった先生方は、子供たちのために時間を惜しまず宿泊行事の準備に取り組んくれます。大樹寺小学校では、5年生の山の学習は5月に行っています。多くの学校は6月から9月に実施するのですが、この時期は暑さが心配です。子供たちの健康安全を考慮し、5月実施を選択しています。ところが5月というのは、教員にとってはスケジュールがタイト。5年生の先生方は、GW前から山の学習の準備に取り組んでいきました。

山の学習は修学旅行以上に緻密な計画が必要です。修学旅行ならば食事などは黙っていても提供されますが、山の学習は違います。子供たちが自分の手で作り、自分の手で片づけなくてはなりません。宿泊行事では、子供の主体性を育むことも目的の一つ。しかし主体性を育てるからと言って、全てを子供任せにしていたのでは生活が「空中分解」しかねません。子供たちを教師が支援しながら、主体性を促していく、そのような準備が大切なのです。

今年の山の学習は、教師支援と子供の活動が見事に融合したものとなりました。メインとなる活動は三つあります。一つ目は飯盒炊飯です。時代と共にキャンプを経験した子供の数が減ってきており、多くの子が飯盒活動未経験です。そこで教師が的確に支援をしていきました。活動自体は子供主体ですが、ポイントポイントで先生方がアドバイスをしていきます。この塩梅が絶妙。何と予定より40分ほど早く食事の準備ができました。二つ目の活動はキャンプファイヤーです。5年生の先生方はキャンプファイヤーにおける子供たちの動きを、しっかりと事前指導していました。これによって活動に対する子供の迷いなくなります。さらにサプライズとして行われたのが「先生によるスタンプ」です。本校の若手教師を中心に名探偵コナンを題材にした楽しい寸劇とゲーム。先生方の熱演に、子供たちは大喜びとなりました。三つ目は、意外と思われるかもしれませんが、宿泊ロッジでの「シーツ返納」です。寝具として使ったシーツを返納するのですが、自然の家特有のルールがあり、毎年混乱が起きます。ところが、今年はスムーズに返納ができました。これは、先生方の役割分担が明確であったことと、起床後すぐにシーツ返納への活動を始めた子供の意識の高さがあったからです。

教師支援と子供の活動の効果的な化学反応。これによって、とても充実した山の学習になりました。爽やかな気持ちで下山することができました。

